

＜目を覚ます秘訣＞

I テサロニケ 5 : 1 ~ 11

イエス様は「目を覚ましていなさいと」と言われた。何度も忠告されたのは、私たちの信仰生活に睡魔が襲うようなことが起こり得るから。あえて眠ろうとするわけではないけれど、そうさせるものがある。

【テサロニケ教会】

テサロニケは、マケドニア州の首都。20万人もの人口を抱えた大都市。パウロの2度目の宣教旅行で初めてヨーロッパへ渡った時に誕生した。

(使徒の働き 17章)

1章…テサロニケ教会の兄弟姉妹の信仰

私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。【5節】

あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主にならう者になりました。【6節】

こうして、あなたがたは、マケドニヤとアカヤとのすべての信者の模範になったのです。【7節】

テサロニケの教会が抱えた疑問

死後、自分たちを待ち受けているのは何か？

もし、主がすぐに再臨されるのなら、どのようにして迎えることができるのか？

ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして、慎み深くしましょう。【6節】

【天路歷程】イギリス人・ジョンバニヤン著 歷程…「経て来たみちすじ」の意味。

「破滅の町」に住んでいた主人公クリスチャンは、自分の魂が救われるにはどうしたら良いのだろうと、救いを求め旅が始める。エバンジェリスト（福音）に出会い、十字架を通り、その後も困難の丘、屈辱の谷、虚栄の町、道草の原などを通りながら、さまざまな試練や助けを経て、天の都に至るまでを描いた物語。

空気を吸うと眠くなるという「魔法の国」での事。

目を覚まして旅を続けるためにしたことは何だったか・・・？

神がしてくださった恵みを語り合った！
どんなふうにしてこの旅が始まったのか…。

自分の口で、自分の救いを語る。誰かと主の恵みを分かち合うことでだけで、信仰の体温を奪って、命の危険に至らせる睡魔から守られる。

- ◆ クリスマンが神の道について語り合うこと。これが目を覚ましている秘訣。しかしそれは意識しなければ出来ない。
- ◆ 信仰の道と一緒に歩く人が誰にも必要。周りに独りでいる人はいないだろうか？

主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目ざめていても、眠っていても、主とともに生きるためです。ですから、あなたがたは、今しているとおり互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。

【10、11節】

互いに徳を高め合い : build each other up
(建て上げる)

<天路歷程の地図>

